



きずな

野木町国際交流協会 (NIA)

発行：野木町国際交流協会 情報交流部

所在地：栃木県下都賀郡野木町丸林571 野木町公民館内

TEL 0280-57-4188 <http://www.nogitown.com>

i_toh_masa@yahoo.co.jp 2018年4月1日発行

野木町民参加のもとに、諸外国の方々との相互理解と友好を深めるための活動を行いました。

町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「野木町煉瓦窯英語ガイド養成講座」が開催されました

ALTのリズ先生の指導で、煉瓦窯特有の英語を学習し煉瓦窯の前でガイドのポイントを習いました。2020年の東京オリンピック開催までには、英語でガイドができるように皆頑張っています。



町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「おもてなし英会話」が開催されました

おもてなし英会話の講座は毎月2回開催されました。ALTのキャンデス・ヘンスリーさんと一緒に、英語でおもてなしができるようになりたいという方々が参加されました。野木町を訪れる外国人旅行者の方々に、野木町を楽しんで頂きたく、英会話でおもてなしをします。



町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「大人の世界史講座（8）」が開催されました

シルクロードを舞台として、2回にわたり開催をしました。正倉院はシルクロードの終着駅（人・もの・文化の通り道）元中央大学文学部講師 関根先生のわかりやすい説明に、正倉院の御物の魅力が理解できました。シルクロードが更に興味がわいてきました。



町生涯学習課と国際交流協会との協働講座

「読み聞かせ英会話」が開催されました

読み聞かせ英会話の講座は毎月2回開催されました。

ママとお子様が、楽しくALTのキャンデス・ヘンスリー先生と英会話を、お勉強をしました。



アメリカ ケンタッキー州からのレポート 野木町国際交流協会リポーター

No.005 鈴木豊

早いもので暑い日本を離れ、8か月が過ぎようとしています。昔から「住めば都」ということわざがありますよね。ローカルの空港に飛行機が着陸して最初に感じたこと…2回目の同じ海外拠点への赴任ということもあって「帰ってきたな」でした。

正直言って緊張感もあまりなく、車の運転や食生活など私はすんなり新生活に入れました。やはり2回目である妻もおそらく…。でも子供達は緊張していたようです。前回と今回の最大の違いはやはり子供たちが小学校に通うということですね。



月曜日から金曜日は現地校で普通にアメリカ人のお子さん達と一緒に勉強しています。そして土曜日は日本人補習学校での勉強。アメリカ人の友達もできて、すっかり現地校に慣れた様子。本当に良かったです。家族が充実した生活を送れないと私も気になって仕事に身が入らなくなってしまいます。それは日本でも同じかもしれません。さて、皆さんはケンタッキー州といえば何を想像しますか？フライドチキン、競馬、バーボン？そんなところではないでしょうか。はいその通りです。フライドチキン生誕の地というのが、私たちの住む街から高速道路(I-75)を1時間くらい南下したところにあります。



お店もやっていて食べましたが、味は日本とあまり変わらないですね。また、お店の中にはサンダースおじさんの像や開店当時の再現風景などが残っています。

家の周りをちょっと車で走ると牧場、そして競走馬のタマゴがいてなかなか良い風景です。寒かった冬ももうすぐ終わりますので、連休を使ってドライブがてらの旅行計画をそろそろ立てよう検討しています。

また、昨年忙しくて行けなかったメジャーリーグを早く見に行きたい。子供達に絶対見せてあげたいですね。日本のプロ野球とは球場の雰囲気とかが違うんです。

前回の赴任はニューヨークなどの都会に行きましたが、今回はまだ行っていない州にぜひ行ってみたい。

でも子供達は前出の都会に行きたいらしいです。まあそれはおいおい考えましょう。なんか遊びの事ばかり書いてしまいました。

でもいつかは日本に帰りますので、この地でしかできないことを今のうちにいっぱい体験して、これから的人生に役立てて欲しいと子供たちに対しては強く願っています。最後になりますがレキシントン市も良い街。でもやっぱり野木町にはかないませんね！

またレポートさせていただきます。夏の一時帰国の折には、日本語教室をのぞかせていただきます。

中国の大学で日本語教師を体験して(後編)

奥井 靖



日本語教師

1コマ100分授業を週7コマ、1年に36週。2年と3年を受け持ち、会話、作文、視聴、日本映画鑑賞(半沢直樹を教材に使いました)、時事日本語等の授業を担当しました。時事日本語は朝日新聞のデジタル版、天声人語を中心に進めました。政治の話題に触れたくない思いがあり、時事日本語の授業は一番神経をつかった授業でした。日中間の神経質な話題は避けました。日本人の私が、中国の教壇で、中国政府や中国人を批判するような新聞記事を紹介することは、やはりかなりリスク一なことです。ご存知のように中国は共産党一党独裁の国です。各大学には共産党の独立した部屋があります。(2014年末の数字ですが、共産党員数はおよそ8800万人との統計があります)13億人分の8800万人ですから、その力は強大です。

中国語に古い友人を表す言葉として「老朋友」と言う言葉がありますが、日本人と中国人は正に「老朋友」なのです。残念なことに、今日中関係はいい状態にありません。お互いの違いを認め合って、理解し合い、いい関係を築きたいものです。



教職員宿舎棟



生徒との会食

(終)

★「日本語能力試験」

日本語を母国語にしない外国人に対し世界中で同時に7月と12月の第一日曜日に行われている「日本語能力試験」(英語のTOEICに相当)の昨年(2017年)の受験者数が年間を通して初めて100万人(102万5,435人)を超えるました。

日本国内での受験者数が33万3千人に対し、海外での受験者数は69万2千人でした。特にアジアで増えているとのことです。

第41回野木町文化祭展示部門、模擬店で参加

公民館ロビーにて模擬店でインドのお茶、チャイを販売、各國のお菓子も販売しました。



野木町公民館まつりに模擬店で参加

公民館ロビーにて模擬店であまさけを販売しました。



【私と国際交流】

会員 鶴岡 学

このところ、国際交流で新たな自分の挑戦が続いています。大人になって挑戦したって良い。私の家族は子ども3人とフォトグラファーの妻の5人家族。一昨年、アパートから戸建住宅に引っ越しました。ここ最近の年は、家族も増え、時間の使い方を見直すことがありました。ハッピーなこともありますが、それだけではありません。腰の椎間板ヘルニアになり、歩けなくなり、初めての大手術と長期入院を経験しました。新たに入居したばかりの家で、空き巣に入られました。

モノより命の大切さを感じました。心の不調も起こし、自分の不甲斐なさに自分を責めました。私はどこに向かうのでしょうか。今

も答えはわかりません。良い面がある一方で、ダメな面も沢山あります。だからこそ、人の痛みや苦しみが、ほんの少しですが理解できたり、共感できたり認め合えるのかもしれません。私にとって国際交流とは、良い面もダメな面も認め合う学びの場です。人によって思いが伝わりやすいときもあれば、伝わりにくく苦戦することもあります。それは他者を認めるとき同時に自分を認めることがあります。昨年は沢山の外国人の方が我が家にご縁があってホームステイに来ました。全員とても素敵な人です。ホームステイは、人を信じることができます。自分のダメな面も出せます。足りないところにも気付けます。気を遣うことができます。苦労は買ってでもしなさい！

昔、祖母やご年配の方々に教えられました。家の中で共同で暮らすということは、大浴場で裸で付き合うのと似てるような、裸の付き合いが出来ます。私はホームステイをするのはハードルが高い方に、この国際交流の楽しさや魅力を伝える為に、ホームパーティーやイベント企画をしてきました。沢山の出会いがありました。同じ地域に住みながら、なかなか交流することがなかった方と新しい出会いが沢山ありました。新しい人との出会いだけでなく、新しい地元の魅力的な場所を教えていただくこともあります。自分の住む町の魅力を再認識することができました。観光業界では、よそ者、ばか者、若者の視点が大切だと言われてますが、まさにホームステイという手段で国際交流をしてきた私にとって、外国人の若者は、ばか者ではありませんが、新しい視点を教えてくれる貴重な存在です。東日本大震災から間もなく7年、次いつ来るかわからない震災のときに備えて、これからも助け合いのコミュニティを継続して作っていきたいと思います。戦争だって嫌。世界中に沢山の家族のように付き合える仲間作りをして、いつか子供達にも日本だけでなく世界を見てほしい。私もこれからも足元を見ながらも世界を見たい。ホームステイでご縁があった方々が成長した姿を現地に見に行きたい。そして、リアルな現地の生活を見たい。だからこそ、私はリアルな日本人家庭を外国人に伝えると同時に、同じ地域に住む方々と、今この瞬間をいかに豊かに楽しく幸せを感じられる時間を共有できるのか、一緒になって企画したいと思います。多くの人に私がお役に立てることは何かを、これからも意識しながら生活していきます。

ありがとうございました。

編集後記

皆様のご協力により、きずな第13号を発刊することができました。心よりお礼を申し上げます。

次回は秋季号の発刊を予定しております。

twitter、Facebook、ホームページ等で旬の情報を、皆様へお伝えできるよう努めてまいります。
よろしくお願ひいたします。

(発行責任者 伊東記)